

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の 目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月25日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を実現する授業実践と、授業改善を行う。 ○児童・生徒一人ひとりのニーズにあわせた教育を行う。 ○カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、教育課程の編成に取り組む。	①「個別最適な学び」「協働的な学び」につながる授業づくりを推進する。 ②児童・生徒一人ひとりのニーズにあわせ、ICT機器を授業で活用し、授業内容を充実させる。	①授業づくりの視点を明確にして指導案を作成し、関係者で共有しながら授業改善を行なう。 ②ICT機器の教員向け研修や相談体制を充実させ、実践的な活用を進める。	①「個別最適な学び」「協働的な学び」につながる授業の視点を明確にして授業改善ができたか。 ②児童・生徒一人ひとりのニーズを把握し、ICT機器を活用した授業を実践できたか。	学習環境や活動内容など視点を明確にして授業改善ができた。肯定的評価は教員84%。 教員向け研修や相談体制が充実し、授業実践に活かすことができた。肯定的評価は教員78%。	改訂した指導案の標準化を進め、「みてみてカード」を活用し授業改善に繋げていく。 ICT機器の活動場面、活用方法等を工夫するとともにその授業実践を発信し保護者と共有していく。	的確な児童生徒觀をもとに、将来を見通して今何をすべきかを考えいくとよい。 ICTを楽しく活用できている。保護者の理解を促進する発信が大切である。人と人をつなぐ意識が大切である。	授業づくりの視点を明確にして授業改善ができた。今後は改訂した指導案を標準化し今までの研究成果を授業改善に活用していく。 ICT機器に関する研修や相談体制が充実した。保護者や教職員にICTの活用状況を発信していくことが課題である。	児童生徒觀を指導案で明確にし将来の見通しをもった上で、現在の指導・支援や関わりを考えて授業改善を進めていく。 ICT機器に関する研修等を継続しながら、ICTを活用した授業実践を行い、その状況を保護者に発信して効果的な指導を進めていく。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	○児童・生徒に対し、きめ細やかな指導・支援の充実を図る。 ○教育活動全体で人権の視点に立った学校づくりに取り組む。	①一人ひとりの障害の状況やニーズに応じた組織的な通学支援体制を構築する。 ②意見を言い合える風通しの良い職場環境を構築し、人権を尊重した指導や支援を行う。	①通学支援の校内体制を整備するとともに協力事業所との連携をさらに進める。 ②児童・生徒への配慮や手立てを日々確認するため情報共有の方法を工夫する。	①自立と社会参加に向けた児童・生徒の通学支援体制を整備することができたか。 ②情報の共有が図られ、人権を尊重した指導や支援ができたか。	協力事業所との連携を行い、組織的な通学支援体制ができつつある。肯定的評価は保護者90%。 情報共有の肯定的評価は教員87%。人権尊重の肯定的評価は教員93%。	医療的ケア児通学支援利用者の増加に対応し、今後も通学支援体制を整備していく。 情報共有の工夫、「さん付け呼称」の徹底等人権を尊重した指導支援に引き続き取り組む	医療的ケア児の通学支援は通学の確保だけでなく登校回数や授業時間が増え教育内容の充実にも繋がった。 児童生徒の実態から適切な指導方法について共通理解をして支援にあたり人権を尊重した指導・支援に繋がった。	医療的ケア児通学支援は保護者の負担減だけでなく学習時間確保等の教育内容の充実にも繋がった。 児童生徒と教職員の心理的安全性が学校運営上とても大切である。	通学支援は互いを知るよい機会となっているため、地域協働の取組の中で通学支援の協力を呼び掛けていく。 人権を尊重する意識や態度の定着に粘り強く継続的に取り組み、丁寧で適切な支援・指導に繋げていく。
3	進路指導・支援	○本人のニーズや適性に応じた、自己選択・自己決定のための継続した指導・支援に取り組む。 ○児童・生徒の自立と社会参加に向けた主体的な取組を支援する。	①専門職等と連携し児童・生徒一人ひとりのキャリア発達を支援する取組を進める。 ②いつでも・どこでも誰とでも活動できるよう、児童・生徒支援を行う。	①義務教育段階から自己選択・自己決定を意識した授業づくりを行なう。 ②地域に出る活動や地域に貢献する活動を計画的に実施する。	①専門職等と連携し、子どもの自己選択・自己決定を進めることができたか。 ②地域に出る活動を通して、児童生徒が主体的に学ぶことができたか。	小中高とともに自己選択・自己決定を進めることができた。肯定的評価は保護者95%。 校外活動の系統性を整理し主体的に学ぶことができた。肯定的評価は教員86%。	小中高を通してキャリア発達を系統的に支援する取組を今後も充実させていく。 地域と連携し今後も児童生徒が地域で主体的に学ぶための環境整備を進めていく。	卒業後を意識し何を現時点で学習していくのが良いのかを知っておく必要がある。 知識を体験につなげていく学習活動が大切である。	「卒業生の話を聞く会」は生徒が将来を考えるよい機会となった。今後は保護者も含めた取組を検討していく。 小中校と系統的な校外活動について整理を進めた。地域の中で主体的な学びを深めていくことが課題である。	引き続き、自己選択・自己決定を意識した授業づくりや指導・支援を進めていく。 校外活動の中で、いつでもどこでも誰とでも活動できる関係づくりをめざし、児童生徒支援、授業づくりを進めていく。
4	地域等との協働	○学校と地域の双方で連携・協働するための組織的・継続的な仕組みを構築する。 ○地域における特別支援教育のセンター的機能としての取組を推進し、共生社会の実現に向け取り組む。	①学校運営協議会を通じ地域と協働するしくみ作りを進める。 ②地域のニーズの把握と支援を的確に行い、地域の特別支援教育の専門性を高める。	①部会と共生社会推進チームが連携し地域とつながる活動を開拓する。 ②人的交流を進めながら、効果的なセンター的機能のあり方を検討する。	①学校と地域の双方で連携・協働した取組を進めることができたか。 ②小学校との人的交流を進めることにより、組織的な体制整備と人材育成ができたか。	地域と連携した活動が充実した。肯定的評価は教員89%、保護者84%。 地域の学校への巡回相談、研究講師等の体制整備が進んだ。肯定的評価は教員77%。	地域との取組を年間指導計画等に位置付け継続的、系統的に進めていく。 地域のニーズを把握しセンター的機能の強化を引き続き進めていく。	地域の多くの方が学校に関わっていることの情報発信が必要である。 地域の学校の子ども達を支援する特別支援学校の役割を強化していくとよい。	地域と連携した授業や活動が充実した。持続可能な取組にしていくことが課題である。 人的交流により地域のニーズの把握を進めることができた。センター的機能の強化を引き続き進めていく。	地域との連携・協働を教育課程に位置付け、継続的、系統的な学びとして定着させていく。 人的交流や地域の学校への相談体制を整備する中で、校内の組織的な体制整備と人材育成を進めていく。
5	学校管理 学校運営	○地域と一緒に安全で安心な学校づくりに取り組む。 ○子どもたちと向き合う時間を確保し、教育の質を向上させるために、働き方改革を推進する。	①地域との繋がりを強化し、防災活動等を通して共生社会の推進に貢献する。 ②意識改革、業務のスリム化・効率化を図り、働きやすい職場環境を構築する。	①防災プロジェクト、共生社会推進チームを中心に地域と繋がる活動を進める。 ②会議の効率化、文書の簡素化、業務のスリム化を進め、ノーカー残業デーを徹底する。	①地域や企業と連携し、防災システムを構築するとともに、共生社会の推進に貢献できたか。 ②子どもたちと向き合う時間を確保するとともに、総労働時間を短縮することができたか。	発災時の避難行動を地域と連携して進めることができた。肯定的評価は教員86%、保護者92%。 学校全体で取り組み、時間外在校時間が減少した。肯定的評価は教員71%。	地域と一体となった防災システムの構築を共生の取組とともにさらに進めしていく。 今後も教員一人ひとりが主体的に働き方改革を推進する体制整備を進める。	防災活動に学校自らが自助を重視して取り組んでいることがとてもよい。 働き方改革は「やるべきこと」を明確にして進めていくことが大切である。	地域や企業と連携して発災時の避難行動を進めることができた。 引き続き防災共生の取組を進めていく。 学校全体で働き方改革が進み、総労働時間が短縮した。	地域との繋がりを強化し地域と一緒に防災システムの構築を進めていく。 働き方改革の意識を常に持ち、業務改善を継続し、風通しがよく働きやすい職場づくりを進めていく。

